

⑦私たちの街は私たちが守る!!

— 三郷市自主防災組織連絡協議会 —

三郷市自主防災組織連絡協議会（三郷市）

団体概要

設立年度：平成9年3月

加入団体数：124団体

（ともに平成23年4月1日現在）



▲訓練指導者養成講座で行われた救護訓練の様子

地域の状況

地理的状況：平野部

江戸川と中川に挟まれ、地形に高低差はない。また北から南に向かってわずかに傾斜し、標高は1～3mで、地質は沖積層からなっている。

地域の概況：東京からのベットタウンであり、昔から存在する集落と大規模な集合団地の両面をあわせもつ。

過去の災害：地震 大正12年9月関東大震災 全壊22棟

風水害 昭和22年9月カスリーン台風 三郷湛水2週間以上

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

●三郷市では昭和63年頃から自主防災組織の設立について推進を図っている。平成8年には市内の半数を超える72の町会等（自治会、管理組合）で自主防災組織が組織されたことから、消防署による訓練指導も多大となり、自主防災組織の充実に自主防災リーダーの必要性を考えることになり、また、各自主防災組織同士の連携や協力、情報交換の機会の確保などの必要性も求められてきた。

そこで、自主防災連絡協議会結成を企画し、市内を6地区に分けて地区毎に説明会を行い、その中で、準備委員を選出いただき、準備委員会での検討を重ね平成9年3月に連絡協議会が設立された。

（連絡協議会の現状）

●連絡協議会の設立当初は主に行政側が活動を企画していたが、その後、それぞれの活動の企画段階から連絡協議会のメンバーが参画することで、「自分たちが」という意識が高まり、徐々に自主的な活動に移行、進展しており、行政側は支援に回る形になってきている。

○特徴的な取り組み内容

（リーダーの養成）

●指導者養成講座を平成16年から1年に3回実施しており、講座の内容は、応急手当て、炊き出し訓練、救護訓練、初期消火訓練などから構成されている。この講座を計3回受講すると「修了」となり、「訓練指導者証」が与えられる。3回受講する狙いは、1回目は「体験」し、2回目に「理解」し、3回目「教える技法を習得」という考えに基づくものである。修了者の多くは「指導者ネットワーク」の会員となり、この養成講座の指導者として活動しているほか、自分たちの自主防災組織のメンバーに技術を伝えている。なお、地域の防災リーダーは通算300名を超えており、地域の自主防災力の向上に寄与している。



▲ 視察研修の様子



▲ 市主催総合防災訓練で指導者ネットワークによる
消火訓練指導の様子

○組織の形態

- 会長 - 副会長2名 - 幹事9名
 - 監事2名
 - 会計1名

○活動の成果

連絡協議会の設立により自主防災組織同士の交流が活発になり、お互いの活動内容や資機材の使い勝手などを情報交換がしやすくなった。また、指導者養成講座の修了者が増えていくことで、地区ごとの組織の技術が向上していくなど、連絡協議会の存在が個々の自主防災組織の活動にも良い影響を及ぼしている。

【地域全体の防災レベル向上に貢献する活動】

指導者養成講座以外にも連絡協議会のメリットを生かした様々な活動を行っている。

- 各自主防災会の先進事例発表も兼ねた連絡協議会総会を年1回実施している。
- 市内を7ブロック（当初6ブロック）に分け、各ブロックごとに情報共有を目的としたブロック情報交流会を開催し、防災訓練の実施状況や、地域の問題点、資機材の使い勝手等について情報交換を行っている。
- 地域連携を目的に、ブロック単位での合同訓練を実施している。
- 市内自主防災会を対象とした防災講演会、防災視察研修を隔年で実施している。
- 地域住民の防災意識啓発のため、「みさと自主防災報」を年1回発行し、全世帯へ配布している。
- 連絡協議会にて水消火器等の防災訓練用資機材を整備し、個々の自主防災組織に適宜貸し出している。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【今後の課題について】

●現在、市内の自主防災組織は90%を超える組織率ではあるが、個々の自主防災組織の活動状況には温度差があり、防災リーダーの配置状況などには、大きな隔たりが見受けられる。ブロック情報交流会などで、自主防災組織間で相互に活動が活発化されるよう、また、未結成地区への働きかけを進め、市内全域で自主防災活動が充実するよう、連絡協議会と行政のさらなる連携が必要であると考えられる。